

The 13th
TRIZ Symposium in Japan 2017

Create Future Value
with TRIZ!



第13回日本TRIZシンポジウム閉会にあたって

TRIZ Symposium 2017 in Japan

「TRIZで未来価値の創造を！」

(2017年9月21日(木) ~ 22日(金) : 中野サンプラザ)

NPO法人日本TRIZ協会

副理事長 前古 護



第13回日本TRIZシンポジウム2017を振り返って

今年度も2日間(平日)のシンポジウムとして実施致しました。

2日間の平日開催の方式が定着してきている中、本年は企業関係者の参加者のほか大学の方々の参加も多かったと思います。

企業でいうと事業規模の拡大と業種の拡がりを感じており、今後の益々の発展に期待したいと思います。

- チュートリアル

今年も、例年通り第1日目の午前中にチュートリアルを実施しました。

「開発現場でこんなに使える！TRIZの魅力」というテーマで、圧倒的な実務解決テーマ数を誇る緒方隆司氏(TRIZ協会理事)に、TRIZの考え方&使い方を含めた魅力につきわかりやすくお話し頂きました。



● 特別講演 1

1日目午後は、株式会社大林組の高木浩志氏をお招きし、

「東京スカイツリーの建設 ～世界一の高さへの挑戦～」をテーマにお話を頂きました。未知の領域での建設工事における様々な困難を克服してプロジェクトを成功に導いた革新的な技術や工法を紹介いただきました。

“世界一への挑戦”にかける技術者の熱い想いを感じ、大変有意義な講演であったと思います。

● 特別講演 2

2日目午前には、株式会社創造開発研究所の高橋誠氏をお招きし、

「発想の瞬間の秘密」をテーマにお話をいただきました。古今東西の天才たちは、発想の瞬間を何時、どこで、何をヒントに迎えているか、その秘密に迫ってみようという話でした。

豊かな経験と知識をもとにしたとてもわかりやすいお話で、興味深い講演をして頂けたと思います。



- 一般発表は、オーラル発表が1日目7件+2日目14件の実績でした。今年度はポスター発表をなくし、すべてオーラル発表とさせていただきます。来年も今年以上の発表者を期待したいと思います。一般発表の中では、TRIZの関連技法としてQFDやTMやVEとの連携やイノベーション活動とTRIZとの関わりなどの事例も多く、TRIZの多様な展開の可能性を感じることができた2日間だったと思います。
- 参加者については、昨年度と並んで多くの方々に参加いただきました。今後も多くの方に参加いただけるように、シンポジウムの内容を一層魅力的にすることや各団体との連携または広報活動を、さらに強化していきたいと思っています。
- **参加者数（国内・海外） 昨年：129名 → 今回：122名**
来年の第14回大会も、より多くの参加者を集められるよう魅力的なシンポジウムを企画していきたいと思っております。
今後も皆様方のご協力を是非ともお願いいたします。



第13回日本TRIZシンポジウム2017での協力団体

- 後援：日本知財学会、品質工学会
- 協賛：応用統計学会、統計数理研究所リスク解析戦略研究センター、統計センター（総務省）、日刊工業新聞社、日本科学技術連盟、日本機械学会、日本設計工学会、日本創造学会、日本バリュー・エンジニアリング協会

敬称略

- 昨年(2016年)の後援2団体・協賛8団体に比較して、
今年(2017年)は、後援2団体・協賛9団体となり、支援団体を増やすことができました。
これもひとえに関係者の皆様のご理解と努力のたまものと考えます。
- 来年度の第14回大会でも、TRIZの認知度Upおよび参加者の増加を図るべく新たなイベント等の企画も、引き続いて検討したいと思っております。



■ シンポジウム実行委員会

実行委員長：三原祐治

実行副委員長（兼会計担当）：津波古和司

実行委員（事務局）：池田理、福嶋洋次郎

実行委員（スライド翻訳）：津波古和司、小西慶久

実行委員（広報担当）：前古護、広報委員会

プログラム委員長：小西慶久

プログラム委員：澤口学、有田節男、坪倉紀子

■ 開催準備協力

ポスター&パンフレットデザイン：志方敬、志方淳子

開催準備：伊沢久隆、古謝秀明、緒方隆司

■ 会場設営&シンポジウム運営

TRIZ協会運営委員

（敬称略）



会場関係

今回のシンポジウム開催に当たり、会場の使用を
快諾戴き、また種々の便宜を図って戴きました
中野サンプラザ様の関係者各位に厚く御礼申し上げます。



第13回日本TRIZシンポジウム2017 閉会にあたって

シンポジウムも予定された日程を終えました。

- 技術問題解決/ビジネス問題解決/大学の研究/社内教育展開などに対するTRIZの使い方（他の技法:QFD, TM, VE等との組合せも含む）の充実した内容の発表が行われました。
これも皆様のご協力があったのものであります。厚くお礼を申し上げます。

これらの知見を皆さんの所属機関に持ち帰って、TRIZの研究/利用/応用に役立てていただけるものと期待致します。

*運営面では、A会場とB会場が隣接しているため、移動等の無駄もなく、スムーズな案内ができたのではないかと思います。交流会は、はじめての開催会場外での開催でしたがとても活発な交流会になりました。



日本TRIZ協会からのお願いとお誘い

- TRIZシンポジウムでの活動はもとより、日本TRIZ協会の活動は会員ベースの公共的なボランティアベースの非営利法人活動で行われています。
- TRIZを、広く日本に普及し、それによる産業の発展をめざして、研究会活動の参加をはじめとして、TRIZ協会の活動に皆さんの積極的なご参加をお願いします。

<研究会活動>

- 1) 知財創造研究分科会（主査：長谷川公彦氏）
- 2) ビジネス・経営TRIZ研究分科会（主査：吉澤郁雄氏）
- 3) 新しい時代のTRIZ教育分科会（主査：黒澤槇輔氏）



2018年第14回大会に向けて

■ 来年度は、第14回大会です。

- 日程：2018年9月第三週の13日(木) & 14日(金) (または第二週で調整中)
- 場所：例年通り首都圏で開催予定(数力所の候補地から近々に決定予定)

■ 来年度も可能な限り特別企画等も継続して実施していく所存です。

今から、日程の確保をお考えください。

次回のシンポジウムには是非発表をお願いします。

→ 今から発表に向けて準備をお願いします。

と同時に、今年同様活発な意見交換をお願いします。



- ◆ 来年のシンポジウムのためにも、「アンケートの記入」にご協力をお願いします。
- ◆ 「あなたにとって良かった発表」の投票をお願いします。
- ◆ また「名札の回収」にご協力ください。

第13回日本TRIZシンポジウム2017へのご参加を頂き誠にありがとうございました。
あらためてお礼申し上げます。



気をつけてお帰りください



来年またお会いしましょう♪